

平成 26 年度 生駒市行政改革推進委員会
第 1 回 会議録

開催日時 平成 26 年 6 月 6 日（金） 午前 10 時～
開催場所 生駒市役所 4 階 403・404 会議室

出席者

- （委 員） 森委員長、松山副委員長、藤堂委員、松尾委員、岡本委員、奥田委員、松本委員
（事務局） 今井企画財政部長、西川企画政策課長、岡田企画政策課課長補佐、島田企画政策課係員、片山企画政策課係員
（傍聴者） 1 人

欠席者 楠委員

1 開会

2 委員紹介

3 諮問

4 案件

(1) 「補助金等の見直しに関する提言書【平成 25 年度】」に対する平成 26 年度予算での対応について

【資料 2 補助金等の見直しに関する提言への対応状況の説明】

（森委員長） 全体的に委員会の提言と各課の対応について意思疎通がうまく図れていないと思われるところがある。今回はフォローアップとしてそういったところを見ていきたい。全体として見るより個々の補助金について一個ずつ見ていきたいと思うが、まずは全体としての意見はあるか。

（岡本委員） 全体的に見て平成 25 年度予算からあまり減っていないように見える。補助金見直しに取り組んだ結果として物足りないように思う。

（奥田委員） 平成 25 年度予算と書いてあるが実績はこれと同じ額なのか。

（事務局） 決算がまだなので実績としての金額はまだ出ていない。

（松山副委員長） 決算見込みでも良いので実際のコツ額が見たい。予算が減っていないということは委員会で議論した意味がないように思われてしまう。平成 2

7年度以降の対応も総括の部分にいれないと委員会の意見がまったく反映されていないように見える。

(森委員長) No.19 高齢者交通費助成金で852万円増額していることが全体に影響している。このような、対象者が増えるにつれて増額とならざるを得ないものもあるので、他で補助金を削減していても全体的に見ると削減できていないように見えてしまう。事実なので仕方がないが、その経緯を説明する必要がある。フォローアップの結果を公表する際に配慮をしてほしい。

(松山副委員長) 全体としては、総括のところで市としてのコメントを掲載してほしい。

(森委員長) 公表の予定はどのようになっているのか。

(事務局) 公表の方法も含めて議論していただきたい。

(森委員長) 公表したほうが良いか。

(各委員) コメントを添えて公表すべき。

(森委員長) それでは個別に見ていきたい。No.1 自己啓発補助金に関して意見はあるか。

(各委員) 意見なし。

(森委員長) No.2 自治会長研修費補助金について意見はあるか。廃止すべきという提言に対して、効果が認められるという理由で継続という対応になっている。

(岡本委員) 効果が見えづらい。補助金を何に活かしたのかを明確にするべき。

(森委員長) 担当課がなにをもって効果があったと判断しているのかが分からないので、そこの説明を詳しくしてもらいたい。もしかしたら市職員が研修に行った方が効果的な案件があるかもしれない。それも含めて担当課に照会をしてほしい。

(松尾委員) 自治会長の研修ということなら報告書があるのではないか。それを見ればどのような効果があったのか分かりやすいので報告書を提出してもらって欲しい。

(森委員長) そのように対応してほしい。No.3 友好都市宿泊補助金については廃止すべきという提言に対して、見直しを検討するということなのできちっとした対応だと思う。No.4 環境基本計画推進会議補助金について意見はあるか。

(奥田委員) エコネットの活動費のことか。

(事務局) はい。

(松尾委員) 環境美化推進員との関連はあるのか。

(事務局) 環境に関するプロジェクトを行う主体への補助金なので直接的な関連はないと思う。

(松尾委員) この補助金でどのような活動をしているのか市民に分かりづらい。

(事務局) 事業報告書によると、生駒カーニバル、市民環境市民養成講座の開催、

太陽光発電応援団など地球環境問題への取り組みをされている。

- (松尾委員) No.3、No.4については、とても大事なことだが市民にしっかりと周知されていないところに問題があるように思う。
- (森委員長) 全体についても言えることだが、補助金を出している以上しっかりと「見える化」してもらいたい。No.5 農家区長会補助金について廃止すべきという提言に対して継続するという対応だが意見はあるか。
- (岡本委員) 市のコメントからは、長期間続いている補助金なので廃止できないというように見て取れる。誰かが勇気を出して改革していく必要があるのではないか。そうでないと、いつまでも続く。
- (森委員長) 補助金見直しのヒアリングの際に、この補助金は行政の方針である遊休農地の活用を使うということだった。まったく展望が見えなかったもので、委員会では、新たな方法を考えるべきという意味で廃止と提言をしたが、議論と対応がかみ合っていないように思う。
- (事務局) No.5、No.6については活動の実態を各課に照会したい。
- (松山副委員長) 各課の担当者に出席してもらうのはどうか。
- (事務局) ヒアリングだと回答の範囲が限られてしまうことも考えられるので、まずは事務局で全体像の把握をしたい。
- (岡本委員) 補助対象は交通費だけだから仕方がない、市職員の事務軽減に繋がっているから良いという安易な発想で継続という回答になっている可能性がある。
- (森委員長) No.5、No.6に関しては、事務局が間に入って調べるということによろしいか。
- (各委員会) はい。
- (森委員長) No.7 土地改良事業補助金について意見はあるか。
- (事務局) 担当課から詳細を聞いたが、基本的にため池改修に使われる補助金。実施時の業者見積りだけで判断しているのではなく市が積算した金額とも比較して補助金を交付している。
- (岡本委員) 誤解を招くコメントになっているので、内容を分かりやすく変更してほしい。
- (松本委員) 500万円以下の工事については随意契約しているのか。市ではその基準は130万円以下とされているが。
- (事務局) はい。
- (森委員長) コメントを見ると地元施行で実施するほうが低額で迅速だということだが、それだけではなく市として適正な金額をチェックしているということ。
- (松本委員) 随意契約になると業者との癒着が起きやすいので注意してやってもら

いたい。

- (森 委 員 長) 入札に係る事務の負担が大きいことは理解できるが、絶えずチェックすることを忘れずにやってほしい。No.8 商工会議所補助金についてはどうか。
- (岡 本 委 員) 委員会の意見と市の対応がかみ合っていない。
- (松山副委員長) 補助金をもらう側がしっかりと理解していない。補助金を受け取る側である商工会議所の意見を聞いて反映させてほしい。
- (森 委 員 長) 担当課と商工会議所との意見交換はされているのか。
- (事 務 局) 商工会議所はこのような議題があがっていることを十分認識している。
- (森 委 員 長) 本来であれば商工会議所と担当課が講座の参加者を増やす方法など対策を検討し、効果的な事業実施につなげるべき。コメントからそれが感じられないので、その旨を事務局から担当課に伝えてほしい。続いてNo.9 特産品振興補助金（茶釜生産協同組合補助金）、No.10 特産品振興組合（編針工業協同組合補助金）、No.11 特産品振興補助金（茶道具同業組合補助金）、No.12 伝統的工芸品育成補助金についてはどうか。
- (岡 本 委 員) 生駒市の伝統工芸であるので本来は支援すべきもの。より発展させるための見直しをするという意味で、場合によっては増額してもよいということだったが、うまく伝わっていないように感じる。
- (森 委 員 長) 各組合と活動を活発化させる方法を協議してほしい。
- (事 務 局) 提言の趣旨がしっかりと伝わっているかどうかを担当課と組合に確認する。
- (森 委 員 長) No.13 中小企業債務保証料補給金、No.14 中小企業融資制度利子補給金について意見はあるか。
- (岡 本 委 員) 近隣の自治体が導入しているから生駒市も行うという安易な回答である。コメントに中小企業の経営基盤の安定・強化に一定寄与していると記載してあるが、1社平均2万円という低額な補給金でどのように一定寄与しているのか説明してほしい。
- (事 務 局) 償還済の額や借入金額によって利子にばらつきがあり、平均をとると低額になってしまっているのではないか。
- (松山副委員長) どの程度のばらつきがあるか資料を見たい。
- (事 務 局) 担当課に確認する。
- (松山副委員長) すぐにやめられるものではないので平成27年度以降の中期的な対応も知りたい。
- (森 委 員 長) 担当課で考えている可能性もあるので問い合わせてもらいたい。続いてNo.15 人権教育研究会補助金について意見あるか。
- (各 委 員) 意見なし。

- (森 委 員 長) No.16 社会福祉協議会補助金についてはどうか。事業補助は困難だが近づけている。見直しも続けてもらっている。
- (各 委 員) 意見なし。
- (森 委 員 長) No.17 地域交流施設運営補助金について、平成26年度中に廃止とあるが意見はあるか。
- (岡 本 委 員) このケースは成功例だと思う。地域間の公平性を保つために、数々の苦情もあるなかでしっかりとした意思をもって補助金廃止に踏み切った。市民、行政ともに汗をかいて取組んだ結果だと思う。
- (森 委 員 長) 市の努力と市民の理解と協力があって補助金廃止にたどり着いた。No.18 シルバー人材センター運営補助金について意見はあるか。
- (各 委 員) 意見なし。
- (森 委 員 長) No.19 高齢者交通費助成金について意見はあるか。
- (松山副委員長) 「4 現行どおり」になっているが「3 見直しの検討を継続」ではないか。
- (森 委 員 長) 確かに見直しをしようとしているから「3」で良いのではないか。事務局の見解はどうか。
- (事 務 局) 「見直しの検討継続をしている」との判断はありがたいが、現実としてどういう見直しをして、どういう過程で進めていくかが明確ではない。これを「3」にすると基準があいまいになってしまうのではないか。
- (松山副委員長) 実際に検討しているので「3」で良いのではないか。
- (事 務 局) 担当課は考えているが、他の施策との兼ね合いがあって、実施の時期が見えない。
- (松 本 委 員) 議会では満場一致で継続ということだったのか。
- (事 務 局) 一人を除いて継続すべきという意見だった。もう少し議論を深めるべきという意見が大半だった。
- (松 尾 委 員) 高齢者が外出するための施策はとても重要である。担当課で把握している見直しの必要性が何かは分からないが、単純に廃止すれば良いという助成金ではない。
- (松 本 委 員) 同じ予算でもっと効果的な施策がないかを検討してほしい。
- (岡 本 委 員) 趣旨は良いが、交付対象者でない人が使用したり、金券ショップに売ったりといった弊害もあると聞いたことがある。本当に高齢者のためになるような代替施策を打ち出すべきである。
- (森 委 員 長) 目的は正しいが手段としてこの助成金に疑問を感じている。この方法しかないのであれば弊害と向き合いながら進めていくしかないが、本当にこの方法しかないのかどうかを考えてほしい。今後対象者が増え、金額も大きくなる中で市の財政を圧迫しかねないので、それも踏まえて代替策を

検討したほうが良い。

- (松山副委員長) 2億円という莫大な予算があれば様々な方法で高齢者支援が可能だと思う。若い世代と不公平だという面でも見直しが必要だと思う。
- (森委員長) 意見を踏まえるとなおさら「3」でも良いように思う。他の案件との兼ね合いがあるという理由もよく分かるが、現行どおりの「4」だと改革する気がないように受け取られてしまう。
- (藤堂委員) 高齢者にも直接訴えかけていく必要がある。
- (松本委員) 外出できても行く場所がないと意味がない。
- (松山副委員長) そういったことも含めてこの予算があれば様々なことができる。高齢者福祉の部門で生駒市がまだ実施できていない施策はなにかを洗い出して予算等も含めて検討してほしい。
- (藤堂委員) 高齢者の数が増えてきているので、既に実施している施策の中でも不十分な施策があるかもしれない。
- (森委員長) 他の制度との兼ね合いや代替策を含めて具体的に検討してほしい。続いてNo.20 児童育成クラブ運営補助金について意見はあるか。
- (各委員) 意見なし。
- (森委員長) No.21 花と緑のわがまちづくり助成制度補助金について意見はあるか。
- (各委員) 意見なし。
- (森委員長) No.22 全国大会出場補助金(小学校)、No.23 全国大会出場補助金(中学校)について意見はあるか。
- (各委員) 意見なし。
- (森委員長) No.24 遠距離通学児童交通費補助金について意見はあるか。
- (各委員) 意見なし。
- (森委員長) No.25 ちびっこ文化祭開催補助金について意見はあるか。
- (各委員) 意見なし。
- (森委員長) No.26 スポーツクラブ育成補助金について意見はあるか。
- (各委員) 意見なし。
- (森委員長) No.27 消防団員互助会補助金について意見はあるか。
- (各委員) 意見なし。
- (森委員長) 案件(1)『「補助金の見直しに関する提言書(平成25年度)」に対する平成26年度予算での対応について』の総括としては、全体としてのコメントを添えて公表すべき。結果として全体の予算は130万円ほどしか減っていないが、内容を見ると高齢者交通費助成金のように対象者が増えたことによって予算が大幅に増えているものもある。このことについての説明がないと誤った伝わり方になる可能性がある。コメントとしては成功例を挙げて、結果として削減した予算を別の形で市政への有効活用に繋

げることができることを記す必要がある。この二点について事務局で原案を作ってください委員会に提出してほしい。二つ目として、担当課に照会をかけるべき案件について事務局で確認してもらいたい。必要であれば、報告書等を作成し、委員会に提出してほしい。

(2) 前期行動計画の取組状況の確認について

【資料3 前期行動計画の取組状況（平成25年度末時点）について説明】

- (森委員長) 前期行動計画の取組状況についての評価はどのようなスケジュールで進めるのか。
- (事務局) 意見を書いていただく様式をメールで送付するので意見を出していただき、事務局で取りまとめたうえ、次回の委員会で議論していただくのはどうか。その後、報告書として意見と議論の内容を取りまとめる。まずは意見の集約をお願いしたい。
- (森委員長) 意見を出すにあたって、あらかじめ質問しておきたいことはないか。
- (岡本委員) 資料3が変更されることはあるか。
- (事務局) 副市長とのヒアリングが全て終わっていないので変更される可能性はある。万が一変わった場合は、その旨を分かるように記載しておく。
- (岡本委員) いつまでに意見の回答をすればよいか。
- (事務局) 6月中にお願いしたい。
- (松山副委員長) No.10 民間委託の範囲の拡充など民間活力のさらなる活用について、数値目標として新たな民間委託導入件数3件としているが、この3件はどの事業を委託するつもりだったのか。
- (事務局) 把握している範囲だと1件は市民課の窓口業務の民間委託。計画は進んでいるが未実施である。
- (松山副委員長) No.6 市民自治協議会の導入に向けた取組について、取組が進んでいない原因がわからない。
- (藤堂委員) 所管課は市民活動推進課だが、人手不足等もあり市民活動推進課だけでは厳しい状況である。行政全体で進めていく必要がある。
- (岡本委員) 地区の範囲を広げすぎだと思う。範囲を絞って、確実に取組を進めることができる地域から進めていく必要がある。
- (藤堂委員) 市は、現在取組を進めている全ての地区について設立を支援したいと考えている。地域の方々の自主的な機運の盛り上がりを待っているようだ。まず、ひとつの地区に集中してもらえれば、設立できるのではとの声もあがっている。
- (岡本委員) 市民が市民自治協議会のイメージを明確に持っているとは考えにくい。

ある程度は行政が先導する必要があるのではないか。

(藤堂委員) 完全な形での設立は困難だと思う。ある程度の要件を満たせば設立しないと。

(松尾委員) 2、3年という長い目で様子を見てほしい。成果主義で広がりを抑えてしまうのは本末転倒である。

(藤堂委員) 一部でも要件が整えば設立とすればよいと思う。しかし市は、要件を満たすことを要求している。要件を満たす間に、参加者のモチベーションが下がってしまっは意味がない。自治連合会と市で話し合いはしているがなかなか進んでいない。

(松山副委員長) D評価のところはその判断基準を明確にし、根拠や原因を記してほしい。簡単に書いてあるだけでは分からない。

(森委員長) 未達成の理由について、市の認識と委員各位の認識とにずれがあるかも知れない。さらに行政が気づいていないことも多い。委員会としてそういったところを指摘していきたい。そういう観点で積極的に意見を出してほしい。今の段階で他に質問はあるか。

(各委員) 意見なし。

(森委員長) 今後意見を出すまでに質問等があれば事務局に問い合わせしてほしい。

5 閉会

【決定事項】

- ・案件(2)「前期行動計画の取組状況の確認について」の意見を6月27日(金)までに提出